

## 第2回行動ウェルネス研究会

1月19日に開催された初回に続き、第2回目を企画しました。2回目からは本格的に研究会の特色である①精神臨床領域における事例検討、②論文投稿（現場からのエビデンスの発信）を実践するプログラムとします。事例検討とは別枠で弁護士の清水元貴先生に臨床実践において直面する問題について20分のミニレクチャーをしていただけることになりました。実践家とそれに関わる法律の問題を解説していただきたいと思えます。この分野で活躍する行動分析家の方々、是非ご参集ください！

日 時：2019年6月8日（土） 14時～（詳細は  
プログラムをご参照ください）

会 場：慶應義塾大学三田キャンパス  
南館・地下4階ディスタンスラーニング室  
（三田キャンパスマップ【2】）

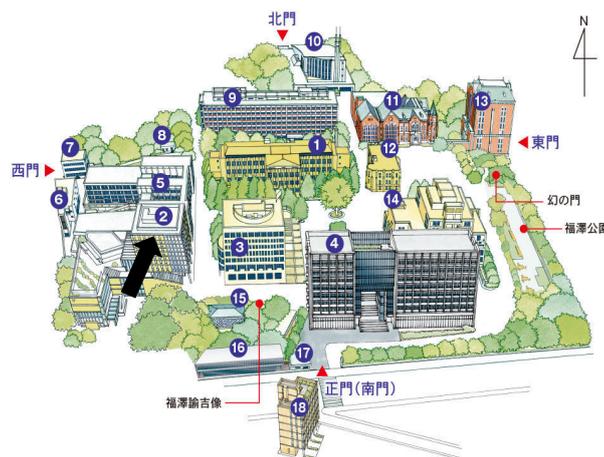
定 員：100名

参加費：無料 ※懇親会（大学キャンパス内【5】で開  
催）参加には事前のお振込が必要です。

参加費：4,000円（学生3,000円）。

申込み：研究会ホームページの申込フォームからお申し込みください。

<https://sites.google.com/view/behaviorwellness>



### プログラム

#### 第1部：演題発表 14時～17時（発表順は未定です）

- ・ 清水元貴（弁護士：宏和法律事務所）  
演題：公認心理師時代における臨床家のための法律相談（臨床上の問題を法律家と考える）
- ・ 石川菜津美（東京大学附属病院こころの発達診療部）  
演題：大学病院における早期療育支援の実際
- ・ 谷川智宏（品川区台場在宅介護支援センター）  
演題：パニック障害のある高齢者へのエクスポージャー
- ・ 瀬口篤史（犬山病院／立命館大学大学院人間科学研究科）  
演題：加害恐怖により買い物ができない高齢女性に対する介入と行動指標の活用
- ・ 仁藤二郎（REON カウンセリング・高井クリニック）  
演題：査読者の“気持ちを理解する”－行動分析学研究への投稿を通して

#### 第2部：パネルディスカッション・オープンディスカッション 17時～19時

#### 第3部：懇親会 19時～21時

懇親会は立食形式にして、慶應義塾大学学食「山食」にて行います。より多くの方とディスカッションしていただけるような内容を検討しておりますので是非ご参加ください。

## 参加の皆さんへ

第2回行動ウェルネス研究会へのご参加をご検討いただきありがとうございます。今回は、すでに発表者が決まっておりますので、「是非発表したい！」という方は次回以降の研究会でご希望ください。データがまだなくても、「これから何をデータとするのか」「どうやって測定するのか」そういった事例の検討も歓迎します。プログラムには明記されていませんが、各発表には奥田健次先生、山本淳一先生からのコメントやミニレクチャーが随伴します。

第2部のパネルディスカッションでは、発表者全員と奥田健次先生・山本淳一先生も交え、討議します。その後のオープンディスカッションでは、いくつかのグループに分かれて、参加者の皆さんとともに、グループ討議を行います。ご自由にグループに出入りしていただき、活発な討議をお願いします。第1部の状況によっては第2部の時間が短くなる可能性があります。

第3部の懇親会は、学内の「山食（やましよく）」で行います。行動ウェルネス研究会の趣旨である、自由でフラットな議論ができる場として立食形式としました。第2部の討議を発展させたり、さらに自由な話し合いができる場にしたいと考えておりますので、第1部、2部とセットでご参加をご検討ください。

---

近年、精神保健福祉領域（精神臨床）においては認知行動療法（CBT）がRCTによるエビデンスを備えた心理療法として隆盛を極めています。しかし、認知行動療法の隆盛にも関わらず、精神臨床の現場レベルでは、実践のエビデンスがほとんど提出されていないのが実情なのです。

実は、その認知行動療法（CBT）には行動分析学のエッセンスを取り入れた方法論が多く存在しています。そして、精神臨床分野での実践において、行動分析学のエッセンスを取り入れて支援を行なっている専門家は、それと意識しない場合でもかなりの割合になると考えられます。行動分析学は、公認心理師や精神障害支援に関する教科書の中にも取り上げられてきており、今後も幅広い領域のヒューマンサービスの基本的な理論やテクノロジーとしての力量をもっています。

本研究会は、精神保健福祉領域の実践家・臨床家に、①応用行動分析学を現場において実践していくための方法を学ぶ機会（事例検討）を提供し、②現場で得られた実践の効果を、学会発表や論文という形にして公表していく枠組み（事例発表・論文投稿）を提供することを目的として設立されました。

論文を、個人の業績のためだけではなく、未来のクライアントのために書くという趣旨のもと、多くの実践家の方々にご賛同、ご参加頂き、現場レベルのエビデンスを「単一事例研究デザイン」の実践成果・研究成果として集積してゆくことで、「完成度の高いサービス（well-established service）」を発信し、実現していくための枠組みを提供します。

会長：仁藤二郎

主催：行動ウェルネス研究会

共催：慶應義塾大学 論理と感性のグローバル研究センター